

二番茶における摘み取り適期の予測技術

農業研究部

1. 研究の背景

県内のドリンク茶産地では、広大な茶園の成園化に伴い、経営規模が拡大している。数十ヘクタールの大規模な茶園において、高品質な生葉を出来るだけ多く摘採することが望まれる。そのような中、大規模経営で収量と品質を両立させるためには、摘採適期を予測することが有効と考えられる。

過去に一番茶の摘採適期を予測する技術を確立した（2015普及カード）ので、今回は二番茶の摘採時期を予測する方法を確立した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・二番茶の目標全窒素を4%以上とした場合、一番茶摘採から二番茶摘採までの積算気温はおおよそ1,000℃・日となり、これを目標に摘採計画を立てることができる。
- ・「おくみどり」、「さやまかおり」、「ふうしゅん」、「めいりよく」、「やぶきた」で概ね同じ傾向である。
- ・一番茶摘採後の積算気温1,000℃・日を摘採日とした場合、生葉収量は目標値の700kg以上/10aを概ね達成できる。

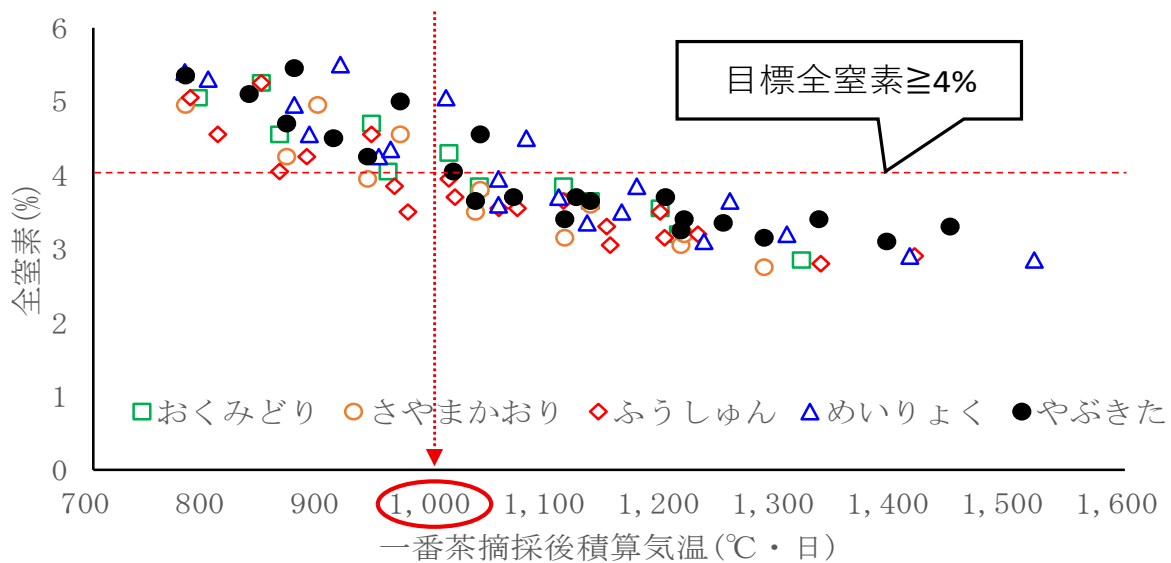


図 一番茶摘採後積算気温と全窒素の推移(2022~2024)

3. 期待される効果

- ・大規模茶園での早期摘採計画作成による適期摘採の実現
- ・収量確保と品質維持の両立

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 葉根菜類・茶業チーム
住所:大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8 電話:0974-28-2082